

# 達者です ⑥5

## 今が一番幸せ

なかむら  
中村 スミコ さん

83歳 (正明市1区)

と「中央公民館は私の遊び場です。毎週日曜日の午前中にやっている和吟会は、今年で20年を迎えます。夫が講師で始めた詩吟ですが、今ではカラオケが主になっています。また、手編みグループは毎週水曜日に弁当を持って行きます。元来手先を使うことが好きで、50歳から市内の呉服屋の注文で着物の仕立てを始め、77歳まで縫っていました。手編みも子供の頃から好きで、夫のものや子供・孫・ひ孫に編んでやると喜んで着てくれる。それがうれしくて編んでいます」と、手製のカーディガンを着て話してくれました。

「こうして好きなことができるのも、主人と趣味が一緒で、息子夫婦がよくしてくれるからです。感謝しています」と幸せそう。

長門では「絵手紙教室」の講座がなく、人様のを拝見するだけでしたが、講師の古川邦子先生の事を知りお便りしたのがきっかけで、開講できました。古川先生の師で、NHK等で有名な小池邦夫氏の言葉を借りれば「ヘタでいいヘタがいい」がモットーだそうですので、私

絵手紙は知らない貴方と私をつなぐ

— 紫 会 —



富岡 アイ子 さん  
(上川西2区)

エンジヨイ  
仲間 達

⑥2

私たちは気楽に時間も忘れ、描き上がったときのみんなの顔は素敵に輝いております。  
長寿世界一の生涯教育の一環として、老いても病んでもできるのが何よりと思います。  
毎月第2と第4の火曜日、午後1時から4時まで、どなたでも男女を問わずお越しくださいませんか。



◆問い合わせ  
富岡 アイ子 ☎②3248

今年、このコンクールには米類・漬物類・惣菜類など6部門に合わせて90点の加工品が出品され、その中で惣菜類の部に出品した上山さんの「北浦名物・漁り火」は、海の幸と山の幸がうまくマッチした料理として高い評価を受け、みごと最優秀賞を射止めたもので、長門大津圏域では初めての快挙です。  
「知らせを聞いて驚きました。

長門市生活改善グループ「親和会」に所属し、また、長門市食生活改善推進協議会のメンバーでもある上山さん、3年間挑戦してきた「ふるさと特産加工開発コンクール」でみごと最優秀賞に輝きました。



うえやま  
上山 博子 さん  
(小河内区)

ちよっと小耳にはさんだ

『ふるさと特産加工開発コンクール』で最優秀に (山口県知事賞)

夢のようです。これも普及所の先生方のご指導のお陰です」と話し、「料理はテレビの料理番組からヒントを得て作った。最初はイカに寿司を詰めたものを普及所に持って行ったら、味はいがごはんではなくエビを使ったらと言われ、エビや野菜を詰めることにした」という。

作り方は、みじん切りにした野菜とイカの足を煮て下味をつけ、細かく切ったエビや豆腐とすりおろしたレンコン、シヨウウガ汁を混ぜてイカの胴体に詰め、15〜20分間蒸してから、だししようにゆで煮込んで作るもので、酒の肴にピッタリの料理です。

